

- 2 観光地「桜土手」
- 3 国指定重要文化財「石谷家(いしたにけ)住宅」(智頭町)



SDGs 推進に向けた取り組み

日本で最も美しい村デジタル村民の夜明け事業

智頭町の目標設定

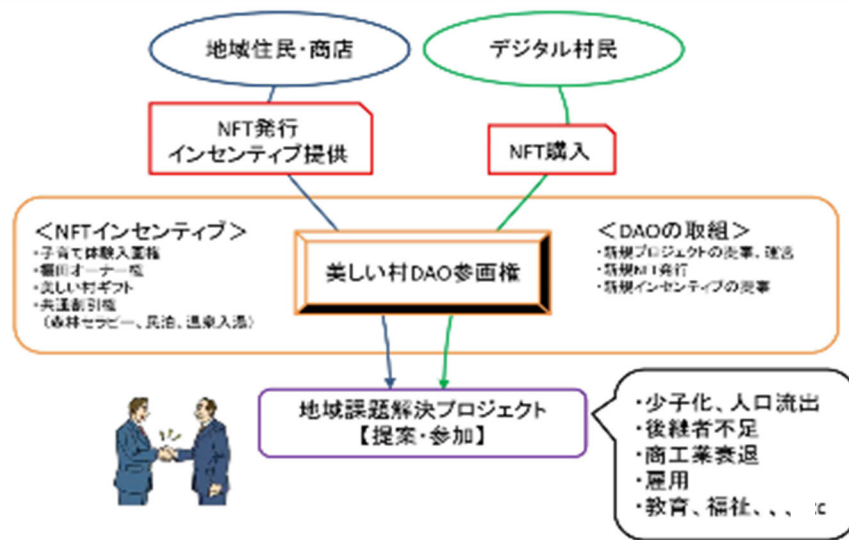
デジタル村民と地域住民とを強く結びつけ、第2、第3の森のようちえん、タルマーリー誘致の創出を目標とする。

松崎町の目標設定

デジタル村民の権利としての「オーナー権」を創設し、従来の制度と併設することで、新たな関係人口とのつながり創出を目標とする。

<それぞれの地域が持つ環境や歴史・文化>を<先進的なDX 技術を使い、町村外部に対して強力な魅力発信を行う>ことで<得られる関係人口や獲得される外貨を地域内へ還流させる仕組みを形成する>

地域内のサービスや資源の獲得権や所有権及び取引履歴をデジタル上で相互管理・運営することで、従来各地域内の公共、民間が個別に行っていた商取引を集約し、新たな資産(例えばデジタルアート)やサービスの追加、ルールの改正、付加価値の創造と稼働の自走を促すことから、従来の中央集権的なシステムで求められていたような人的リソースを大幅に軽減しつつ各地域内の経済を自律的に好循環させる。



それぞれの自治体が抱える「担い手不足」「後継者不足」によって引き起こされる地域産業や伝統的活動、イベント等の途絶、断絶を、本事業によって呼び込んだ「デジタル村民」と地域住民とが智恵と工夫を合わせて食い止め、発展させる一助とする。各地域において公共・民間問わず魅力的な提案が次々に生まれ、育ち、広がるこの事業が、小さくとも賑やかな過疎地における新しい社会システムのモデルとなることを目指す。



4 松崎町の石部(いしぶ)棚田

地域特性と課題

13 智頭町

本事業は鳥取県智頭町(代表)と静岡県松崎町の2町の広域連携モデル事業である。

《智頭町》

智頭町は、鳥取県南東部に位置し、岡山県との県境に位置する。総面積の93%が山林で占められ、森林セラピー[®]や森のようちえんなど独自の取り組みを展開する。20年にわたり住民自治活動を推進し、2019年度にSDGs未来都市へ選定。2010年「日本で最も美しい村」連合加盟。江戸時代から続く林業

を基幹産業とし、歴史ある林業地として栄えた、1955年代をピークが人口減が続き、林業や地域の商業も衰退の一途をたどっている。平成に入り、「自分たちのことは自分でやる」を合言葉に地域住民主体でのまちづくりを続けた結果、森のようちえんやタルマーリーなどの外部への発信力のある取り組みや企業誘致に繋がっている。

《松崎町》

松崎町は、静岡県伊豆半島南西部に位置し、北・東・南の三方を天城山系に囲まれ、西は駿河湾に面している。1980年から「花とロマンの里」をシンボルテーマに、豊かな自然や歴史・文化などの地域の特性を生かした取り組みを進めている。2013年「日本で最も美しい村」連合加盟。松崎町が誇る石部の棚

田は、江戸時代から1955年頃まで連続と続いた水稲耕作の歴史とともに築き上げられてきたが、度重なる災害や、高度経済成長期の減反政策、農家の担い手不足により荒廃の一途をたどった。平成に入り、かつて地域の活気の源であった棚田の復元・保全の気運が高まり、現在のオーナー制度へ繋がっている。

智頭杉(樹齢約350年の慶長杉)

智頭町
人口(令和2年国勢調査): 6427人
面積(参考): 224.7平方キロメートル
連携都市
静岡県松崎町
人口(令和2年国勢調査): 6038人
面積(参考): 85.19平方キロメートル



1 「疎開保険」 今回の事業でNFT化。



interview

代表自治体の
智頭町役場企画課
松村 陽平さん

SDGsに向けた智頭町、静岡県松崎町の連携による取り組み

取り組みを実施するに至った経緯

本町と静岡県松崎町はNPO法人「日本で最も美しい村」連合に加盟しており、美しい村を未来へ存続させていきたいという共通の価値観を持っています。今回の取り組みは、連合のサポーター企業である合同会社美しい村づくりプロジェクト様からご提案をいただき、DAO（自律分散型組織）やNFT（非代替性トークン）ブロックチェーン上で管理ができるトークン（一つ）というweb3.0に関連した技術と仕組みを駆使した関係人口創出と地域課題解決を目指すことになりました。

当初は声のなかった4町村で協議を行っていましたが、新時代の技術の要諦に関する議会への説明の困難さ、予算確保の問題等から、結果的に智頭町と松崎町の2町でスタートすることになりました。

智頭町は2019年度にSDGs未来都市に

選定されていたこともあり、財源として内閣府の広域連携SDGsモデル事業を選択し、採択に向けたヒアリングに二度臨みましたが、一度目は「取り組みが表面的で、地域課題解決の視点が欠けた」との指摘から不採択となったのが強く印象に残っています。

ステークホルダー間の連携

本事業のステークホルダーとして、智頭町、松崎町のほか、提案をいただいた合同会社美しい村づくりプロジェクト、(株)ガイアックスが骨格となり、この事業で目指す将来像の共有と、ブロックチェーン、NFT、DAOの仕組み等の具体化を行いました。また、プロモーション事業に関してデジタルアーティストの土佐先生(京都大学)にご協力いただき、さらには「日本で最も美しい村」連合のバックアップも取り付けることができたのは幸運でした。

取り組みにおける苦勞

本事業はブロックチェーンなどの最先端技術を活用しているため、地域住民の皆様や、地域で活躍されている事業者の皆様へ説明し、理解していただくことに現在も苦労しています。町の取り組みの姿勢に不信感を抱く方もあり、最終的にどのように住民へ還元されるのかを分かりやすく伝える必要があります。

普及啓発のために中学校の授業に取り入れるなど、教育現場を活用することも効果的な方法だと考えています。

今後の展開

「DAO」を運営主体とし、その中でNFTのアイデアが自走し、それぞれの地域課題解決につながるような社会構造を作り上げていきたいです。

そのためには、この取り組みに賛同していただける「美しい村」の仲間を増やすとともに、地域住民、地域プレイヤーの皆様を「美しい村DAO」へ誘導

し、DAOの活性化を図らねばなりません。

また、美しい村をテーマとしたデジタルアートコンテンツなどの魅力的なイベントやコンテンツを展開し、「NFT」「DAO」「美しい村」の知名度向上を目指していきたいところです。

具体的な取り組み

まず美しい村DAO準備室を立ち上げ、事業全体の方針や実施方法の検討を行いました。そして、NFT発行用のプラットフォームの開発と、東京丸の内でのプロモーションイベントを実施しました。

NFTについては智頭町と松崎町の既存コンテンツである「疎開保険」「棚田オーナー制度」を地域資源型として設計し、購入者特典としてそれぞれの地域でのアクティビティ等の割引が得られます。

さらに購入者（デジタル村民）はDAOにおける投票権が付与されるため、DAO内での新たなNFTのアイデアやルール変

更に対して、投票を持つ意思決定が行われる仕組みがDAOの特徴の一つです。

様々な地域が生み出すNFTの発行により、各町村の魅力的なコンテンツの発信と、それに伴う地域の人流、商流の促進が図られます。

■ 智頭町、松崎町での取り組み



2 東京丸の内にて3/6～3/12開催されたプロモーションイベント会場、智頭町、松崎町の特産品をポップカフェで提供。

3 東京・丸の内にて2023年3月に開催されたデジタル村民のプロモーションイベント

1 東京丸の内にて3/6～3/12開催されたプロモーションイベント会場、NFT化されたデジタルアート付ファッショングッズ。